Ⅴ．発掘調査技術等研修会の記録

平成17年度　発掘調査技術等研修会　開催報告

1　目的

発掘調査における民間調査組織の支援状況と問題点について検討し、同時に、調査現場での実態と調査成果標準のあり方について研修する。

2　タイトル

「民間調査組織の支援と調査標準について」

3　主催

愛知県教育委員会／愛知県埋蔵文化財センター

4　日程

平成17年12月7日（水）・8日（木）

5　会場

1日目　愛知県埋蔵文化財調査センター
2階研修室（海部郡弥富町前ヶ須新田字野方802-24）

2日目　朝日遺跡調査現場　貝殻山貝塚資料館（清須市朝日）

6　内容

12月7日（水）参加者45名

「行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準」赤塚次郎（愛知県埋蔵文化財センター）

「積算標準について」
野口哲也（愛知県教育委員会文化財保護室）

「発掘調査業務委託の設計・入札等問題点について」細木克彦（愛知県埋蔵文化財センター）

「文化財としての民間企業と行政を巡る問題点」
岡安光彦（アークビジョン）

座談会・意見交換会

12月8日（木）参加者23名

「朝日遺跡発掘調査現場の視察」
安全対策について・情報処理の実態・測量支援の方法・労務管理の問題点など

「貝殻山貝塚資料館の見学」

座談会・意見交換会


赤塚氏の講演


野口氏の講演


細木氏の講演


岡安氏の講演

導入が決まり、すでに年々増加傾向にある民間調査組織による業務委託・支援の実態について、様々な角度から具体的に紹介され、座談会でも多くの問題点等が指摘された。県内各市町村の事情により、民間組織を利用することになった理由や規模、内容等は多様であり、共有を意図して設定された「積算標準」は、市町村ごとの格差の大きい現段階では有効に機能しない状況にある。また、民間調査組織そのものの抱える問題点、技術者育成や身分保障の面から調査・研究の将来性への懸念についての言及もあった。

同時に、「安全管理」「デジタル化」の技術など民間調査組織に学ぶ所も多く、従来の調査体制や技術、調査成果について、改めて見直す機会となっている。こうした状況の中、現実的な「調査標準」の設定、一般化が望まれている。　　（武部真木）



朝日遺跡視察